

部活動と教員の関わりについて

渡 辺 武 志

名古屋フィルハーモニー交響楽団 OBOE 奏者

寺 島 陽 介

【抄録】 部活動の主顧問を担当する教員はブラック企業につとめているのと同じ、との認識が社会で広まっている。また別の角度からは部活動の主顧問は好きでやっているのであろう、と思われているが、そうでもない。普段の仕事は早く終わりたいし、土日もしっかり休みたい。この内容は17年間、部活動を行ったなかで、どのように効率化してきたかを、1つの例として参考にさせていただけたらと考える。

【キーワード】 部活動

1. 部活動の位置づけ

本校は併設型中高一貫校である。高校から入る生徒も含めて約600名が在籍している。

人数が少ないため、部活動も大規模になることはない。さらに、部活動は中学・高校と別組織での活動が多く、少ない中での活動となる。そのため、本校での部活動の役割は私の中では、校内での居場所づくりと考えている。

全国大会の様子など、マスコミでとりあげられることも多くあるが、そのような場合、生徒の意識は学校生活のほとんどが部活動で占めることになる。(もちろんそのような学校がすべてではないが) 教養を学ぶために学校にきていることが本末転倒になってしまう。

高校生活を充実したものにする方法としては、思いづくりにはなっても、良い方法ではない。私自身はそのような高校生活であったため、卒業後にもう一度高校時代の勉強をやり直すこととなったため、大変であった。

2. 部活動の効率化

教員の仕事の割合で1番大きなものは、授業である。担任業務を終えたあと、放課後に学級運営、校務分掌、学年会や各種会議があるため、毎日全面的に部活動に関わることは不可能である。本校の場合は月曜日や木曜日は会議が放課後からあるため、どんなに時間をとっても平日は3日が限界となる。そのため、生徒たちの自主的な活動が求められる。

では、どのように自主的で効果的な指導をすればよいのだろうか。

部活動の主顧問となった数年間は、ノウハウがないため、手探りで生徒と一緒に取り組んだ。休みもほとんど

なく、楽器の運搬なども含めて、教員と生徒は一所懸命に取り組むが、生徒がうまく伸びないので、指導をすることも多く、よく生徒と対立することも多くあった。いまでははずかしい思い出である。

主顧問をする上で大切なことは、指導者はプレイヤー(生徒)が気持ちよく部活動ができるよう、場所の提供、演奏ができる良い状態を作ることである。つまり環境整備をどのように行うかが重要な仕事となる。また、主顧問の負担を減らすべく、効率化もおこなうのだから、顧問もさまざまなノウハウを学ぶ必要があると考える。そこで、いままでの経験に基づいてその効率化に向けた一例を挙げる。

(0) 知り合いをつくり、目標を立てる

(連盟への加入、連盟への活動の参加)

それぞれの部活動には自治体単位で連盟が存在することが多い。その事務局に連絡をとり、ノウハウを教えてもらうことが大切である。経験者はさまざまな困難を経験し、今にいたっているのも、必ず役に立つ。できれば、その連盟が主催する行事に参加することができれば、生徒は目標をもって取り組むことができる。

(1) 生徒たちに意味あるルーティンワークをつくる。

ブラスバンド部では、放課後に集合後、借用届けを出している、教室整備を行う。出欠をとったあと、全員で呼吸をそろえる大切さを学ぶため、呼吸練習を行っている。パートごとに毎日交代で回す。代表してそのパートの生徒が前に立って、生徒主体でおこなう担当の生徒が全体の前で感想を伝える。

全員での練習を行ったあと、それぞれ、パートごとに教室に分かれてパート内での練習を行う。

(パートごとの練習は(2)を参照)

顧問はずっと生徒の様子を見ることは不可能である

が、顧問が学習した方法を全体に伝えることは可能であるので、方針とその効果を伝えることが大切である。

(2) ルーティンワークをつくる際は専門家に依頼すること。

そのルーティンワークはなんのためにやっているのかを生徒はつねに意識するようにもっていくこと。

本校の場合は

- 1) パート（楽器ごと）での練習
- 2) 全体練習

の2つに区別される。

1) について、主顧問はすべての楽器の知識を知っているわけではない。そこで、パートごとに先生をお願いして、その楽器の正しい扱い方や正しい奏法を学ぶ。故障が少なくなる。良い音が定まって普段の基礎練習が固まり、そのパートの中だけで独立した練習ができるようになる。時期にもよるが、1ヶ月もしくは、2ヶ月に一度くらいの頻度が多い。

2) について、吹奏楽の場合はたくさんのパートが集まって合奏する。そのため、全員で合奏をするためには、全体の調整が必要になる。ここでも専門家にお願いをして、合奏を組み立てている。

本校では、名古屋フィルハーモニー交響楽団Oboe奏者の寺島陽介先生の指導に基づき基礎練習を行っている。内容は、

- ・自分の音や仲間の音を聞いて耳を鍛える練習
- ・音符の長さを全体で把握する練習
- ・楽器の種類の違いから低音域、中音域、高音域の音を同じ音でブレンドし、耳を鍛える練習
- ・和音の構成を低音域、中音域、高音域の組み合わせを考えて音を出して耳を鍛える練習

を行っている。

生徒たちはまじめに全力で取り組んでいるので、よく頑張っていることを顧問はしっかり伝える。これは、生徒と教員の信頼につながることでとても大切である。

(3) 保護者会を開き、金銭的な費用がかかることをなど、協力をお願いすること。

最低限かかる費用については、保護者に明示することが大切である。保護者によっては、楽器の演奏に多額の費用がかかることを知らないかたも多く、トラブルの原因となる。それをさけるために、保護者会を開いて最初に現状を知ってもらうことが大切である。たとえば、楽木管楽器のような音を鳴らすためのリードは消耗品であり、多額の費用がかかる。安価な楽器から高額な楽器もある。その他、吹奏楽では楽器運搬が多大な労力となる。私自身もトラックを運転するなどしたが、大変な作業となる。保護者をお願いすることも一つであるが、むつかしい場合は業者に頼むことは大切である。しかし、1回の運搬料が2万円以上となることを知っている保護者はほとんどいない。

ただし、お金を徴収する以上は会計報告を丁寧におこ

なうことが大切である。みんなからのお金であるので、どのように使用したか、明細をあきらかにすることが必要である。

(4) あくまで顧問はその部活の責任者であること

外部コーチにすべてをまかせることは、1つの方法であるが、コーチは自分が責任者だと勘違いし、生徒と顧問の関係が複雑化する。コーチ主体で部活動が動いてしまい、正常な部活動ではなくなる。顧問として、まったくその部活の経験がない場合でも、あくまでも顧問のお願いする範囲で、活動することが大切である。

(5) できる限り、定期的な休みをとること

生徒たちは部活動に全力で取り組み、成長の過程がよくわかるため、成果が発揮される大会などは、しっかりと応援したいのが心情である。そのため、部活動をする教員はコンクール等の試合の結果までみとどけたい。そのため、責任感が強くなる傾向になる。しかし、大会は土日に行われるため、どうしても休みがとれなくなる。私自身もコンクール前になると、全く休みがとれなくなってしまい、改善が必要だと感じている。

改善点として、副顧問と連携し通常の土日の練習日などに出勤をお願いすることが、必要である。副顧問の中にもいやがる教員もいるが、早めに日程表を作成して、副顧問の理解を得ることが肝要である。

(6) 一人で全部動かそうとは思わないこと。

部活動は、生徒の成長が学業以外で鮮明に見える、さらに、試合等で土日がつぶれることも多い。そのため、応援したくなり…という循環となり、気がつくとも一人で動かしていることが多い。

ただ、かえって一人でないほうが、客観的にみることができるともある。副顧問とチームを組んで、全員で回したり、合奏等は専門家のアドバイスをお願いしたり、(3)でも記した楽器運搬等の作業を業者をお願いするなどの、さまざまな力を結集することで、部活動の効率化をすることが可能となる。

3. まとめ

部活の顧問を引き受けた当初にくらべて生徒が自主的に練習する時間が多くなったため、はじめは会議以外の週5日は合奏を行っていたが、現在では合奏は週2日ほどに減少している。最初はこれでよいのかと考えたこともあったが、現在では教員の心の健康や生徒たちの効果的な練習につながっているようである。

最後に部活動を立ち上げて17年になる。このところ、OB・OGが増えて年に一度同窓会を開くようになった。中高時代の思い出は強いのこり、昔話といまの話で盛り上がる。顧問は、現役中高生のひたむきな活動の様子と同窓会での話が今は一番の楽しみである。